

編集後記・Editorials

魚類学雑誌
46(2): 138

魚類学雑誌46巻2号をお届けします。本号は、本論文3篇と短報5篇の構成となり、和文誌の特色の一つである総説論文を掲載することが出来なかったことは残念なことです。編集委員会では、かねてから若手研究者の方々を中心に魚類学の種々の専門分野における研究の現状と課題などに関する総説原稿の執筆を依頼してきましたが、ここに改めて総説原稿の執筆・投稿をお願いする次第です。

ところで、昨年、今年の年会時における編集委員会および評議員会での議を経て、投稿規定の一部が本年1月1日付けで改訂されたことはご承知のとおりです。また、これと併せて投稿原稿に対する校閲結果の報告方法が変更されました。これらの改訂・変更に至る経緯と理由につきましては、本誌45巻2号において「編集委員会からのお知らせ」(p. 139-140)として報告したところです。しかし、今回の改訂・変更が短期間に行われたことや投稿原稿に対する編集委員会の対処方法に一部不手際があったことと関連して、編集上で幾つかの問題点が生じました(本号に掲載の「編集委員会からのお知らせ」を参照)。そして、この間に数人の会員からこの問題に関する要望と意見が会長宛に送られ、本年10月に九州大学で開催されました年会の編集委員会

や評議員会で論議されました。まだ全ての問題がスッキリと解決されたわけではありませんが、今回の論議を受けて編集委員会では、今後、英文誌・和文誌の質の向上に一層努力するとともに、会員諸氏から寄せられる編集上の問題や編集委員会に対する要望・意見を積極的に受けとめ、編集改善に役立てていく所存です。

今後、英文誌・和文誌の編集あるいは編集委員会自体に対する要望・意見や気づいた点がありましたら、編集委員長あるいは両誌の主任編集委員宛に送って下さるよう、お願いいたします。

なお、46巻の編集にあたり、下記の方々には原稿校閲でお世話になりました。ここに記してお礼申し上げます。

青沼佳方、荒井克俊、東 信行、藤岡正博、林 公義、樋口正仁、細谷和海、井口恵一朗、石原 元、岩田明久、金山勉、片野 修、北田修一、小寺春人、町田吉彦、望月賢二、中井克樹、中村智幸、難波憲二、西田清徳、齊藤憲治、酒井治己、佐野光彦、佐々木邦夫、佐藤陽一、瀬能 宏、千田哲資、渋谷拓郎、清水孝昭、篠原現人、鈴木寿之、竹田達右、田中 彰、田中哲夫、手島和之、渡辺勝敏、矢部 衛、山下洋
(AG)